

1. 単元名 「自然災害からわたしたちの暮らしを守るには」

2. 単元の目標

・自然環境の中で土地のつくりに着目し、ハザードマップがどのように作成されているのかを理解するとともに、地図資料を読み取り、地域調査にいかすことができる。

(知識及び技能)

・地図資料から地域の様子を考察するとともに、調査の結果を防災・減災のための行動と結びつけてまとめることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

・地域の一員として、防災・減災について考え、発信する活動に積極的に参加しようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本学習は、学習指導要領の地理分野(2)ウ「日本の諸地域」(ア)自然環境を中核とした考察及び、エ「身近な地域の調査」の活動をもとに作成した。京都市は、これまで台風や地震など様々な自然災害に見舞われている。また、京都市を流れる桂川は平成25年の台風18号の影響で増水し、桂川付近の嵐山は浸水した。これを受けて桂川流域では堤防工事などが行われてきた。しかし、ハザードマップをみると校区内に洪水による浸水被害を受ける場所が現在でもある。ハザードマップは避難場所や被害想定を確認することができる。ただし、ハザードマップは地形や過去の自然災害などをもとに作成されるため、自然災害が実際に起きたとしても、ハザードマップの想定通りの被害がみられるケースの方が少ないのが課題である。そういった課題を乗り越えるために、自然災害について学習する場合は、土地の成り立ちもともに考える必要がある。

本学習では、生徒たちが住む地域のハザードマップや地形の成り立ちを確認すること、地域調査を通して、防災・減災のために気を付けるべきことをまとめる活動を行う。これらの活動を通して、多面的に防災・減災について考えるようにしていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、小学校の生活科や総合的な学習の時間ではまち探検や介護施設への訪問など、地域に関わる活動をしてきた。しかし、中学校の総合的な学習の時間ではキャリア教育が中心となり、地域との関わりが減少傾向にあり、自分たちが地域の一員であるという意識も薄れていつているのではないかと考える。

また、普段の授業では、個人で活動するのが難しい生徒が数人いるが、班活動では積極的に意見を述べたり、活動に参加したりすることが多い。活動の形態を工夫することで、生徒の主体的な活動へとつながると考える。

### (3) 指導観

本単元はまず、自然災害に備えた防災・減災のための行動について考える。その後、区役所の地域力推進室総務・防災担当の方を招き、ハザードマップの作成についての話を聞く。この活動を通して、「ハザードマップは自然災害の被害想定であり、必ずこの通りの被害になるわけではない」ということに気付かせ、本単元の課題をつかませたい。

ハザードマップの特性を理解したうえで、次は地理院地図〈[地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院](#)〉や今昔マップ〈[今昔マップ on the web:時系列地形図閲覧サイト | 埼玉大学教育学部 谷謙二 \(人文地理学研究室\) \(ktgis.net\)](#)〉を活用して、校区内の土地のつくりについて理解・考察する。地理院地図では、標高や地形分類、過去の自然災害について確認できる。今昔マップは、年代ごとの土地の移り変わりを確認することができる。コンピュータを使って調べた後、地域調査を行う。地域調査では、地図上でみた地形と実際に目で見えた地形の違いや地図上からは読み取れなかった危険な場所を重点的に調査するようにしたい。

そして、調べたことをもとに浸水の被害に対してどのような行動をすればいいのか、行動経路やポイントをポスターにまとめ、発信する活動を行う。校区内には一人で暮らす高齢者が多い。また、町内会が十分に機能していないところもあり、もし自然災害が起こった時に弱い立場の者が取り残される可能性がある。そのため、今回は「高齢者」という対象に限定して、ポスターを作成する。

これらの活動を通して、地域社会の一員として地域の防災・現在の意識を高めるとともに、自分にできることはないかとまちづくりのための活動につなげていくようにする。

### (4) ESDとの関連

#### ○本学習を通して働かせるESDの視点 (見方・考え方)

- ・公平性…自然災害から身を守るための行動は私たちだけではなく、地域全体で理解し、考える必要がある。
- ・責任性…一人ひとりが地域の一員であるという自覚をもって、防災・減災について考えないといけない。

#### ○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力(クリティカルシンキング)  
ハザードマップだけを信じて避難することは危険であることに気付く。
- ・多面的・総合的に考える力  
地域の調査活動やハザードマップなどから防災・減災のための行動について考えている。

#### ○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代内の公正  
自然災害から身を守るために私たちだけでなく、地域全体が安心して過ごせるためのまちづくりを目指した協力が大切である。

#### ○達成が期待されるSDGs

- ・目標 11「住みつづけられるまちづくり」

#### 4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
①ハザードマップがどのように作成されているのかを理解している。 ②地図資料を読み取り、地図資料と視覚情報を比較しながら地域調査をしている。	①地図資料から地域の土地のつくりを考察している。 ②地域調査の結果を防災・減災のための行動と結びつけてまとめている。	①地域の一員として、自覚をもち、防災・減災について考え、発信する活動に積極的に取り組んでいる。

#### 5. 単元の指導計画（全 13 時間）

	学習活動	指導上の留意点	評価
一次 3 時間	①日本では自然災害が多く発生するということを理解し、自然災害に備えた行動について考える。 ・自然災害に備えてできることを考え、交流する。	・自然災害の種類などを教科書に沿って学習する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 災害に備えて私たちにできることはなんだろうか？             </div>			
	②ハザードマップについて考える。 ・校区内(京都市右京区)のハザードマップを確認し、特徴を捉える。 ・ハザードマップが重要視されているなかで東日本大震災の「ハザードマップを信じるな」という言葉があることについて考える。	・校区がどこまでの範囲であるかを線で囲むなどして示しておく。 ・「どうして信じてはいけないのか」ということを考察する。	
	③ハザードマップがどのようにして作成されているのかを知る。 ・ハザードマップの作成について、右京区役所地域力推進室総務・防災担当の方を招き、話を聞く。	・事前にゲストティーチャーと打ち合わせを行い、伝えてほしいことを確認する。	(ア) ①
二次 5 時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 私たちの地域は本当に安全なのだろうか？             </div>		(イ) ①
	④web 上の国土地理院地図や今昔マップを利用して校区内の土地のつくりを調べる。	・基本的な操作は画面共有等で全体に説明する。	(ア) ②
	⑤⑥⑦前授業で調べた土地のつくり	・地域調査の方法や手順について確	

	<p>をもとに、地域調査をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップや地図資料をもとに、班ごとに範囲を決めて地域調査を行う。</li> <li>・前回の授業を踏まえて、土地がどのようなになっているのか仮説を立ててから調査を行う。</li> </ul> <p>⑧文献調査と地域調査の結果を比較し、危険箇所や避難経路の安全性など、地域の実態を見出す。</p>	<p>認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図から読み取ったことと、地域調査で感じたことを比較するために、メモをとるように指示する。</li> <li>・地図上からは読み取れなかった危険箇所も注目するように指示する。</li> <li>・高齢者の方にむけた発信をするためのポスターを作るということを伝えようとして、地域調査を行う。</li> </ul> <p>・文献調査で読み取る土地の成り立ちから考えられる危険箇所と、地域調査を通して感じた危険箇所の違いがあることに気付かせる。</p>	
<p>三 次  5 時 間</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>浸水の被害が出そうなときにどのような行動をすればいいか、行動経路やポイントをまとめ、地域の人に伝えよう。</p> </div> <p>⑨⑩⑪調べたことをもとに浸水の被害に対しての行動経路やポイントを班ごとポスターにまとめる。</p> <p>⑫⑬高齢者を中心とした地域の方を招き、ポスターにまとめたことを発表し、交流する。</p>	<p>・今回は地域の高齢者に向けて発信する。避難の際に気を付けることを全体で共有する。</p> <p>・生徒が決めた範囲の地図を事前に用意しておく。</p> <p>・調べ学習を通して危険だと感じたことを中心にまとめる。</p> <p>・ポスターを発表するだけでなく、感想等も交流する。</p> <p>・交流の中で、新たなアイデア等が出たら、付箋に書いてポスターに貼っていくようにする。</p>	<p>(イ) ② (ウ) ①</p>

指導：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）